やまなみ

師団長統率方針

いかなる任務も完遂しうる強靭な第６師団の創造

派遣海賊対処行動支援隊（第19次要員）帰国行事

第６師団は、神町駐屯地において第６音楽隊の演奏に合わせて行進する派遣海賊対処行動支援隊（第19次要員）を、駐屯地の隊員、ご家族ら約８００人が出迎えました。

帰国行事は、多数の御来賓、派遣隊員のご家族が参加され、執行者である楠見師団長は「約６カ月にわたり灼熱の環境のなか、活動拠点の基盤維持のための警備、管理等の活動を通じ、派遣海賊対処行動航空隊の活動に大きく貢献し、その任務を完遂したことを師団長として大変誇りに思い、心から敬意を表す。また派遣間、心の支えとなってくれたご家族への感謝を忘れず、本派遣の経験を今後の訓練や実務で発揮し活躍してもらいたい。」と訓辞を述べました。

派遣隊員から派遣間の活動についてスライドでの説明後、警務隊長 第20普通科連隊第３中隊 丸山３佐は隊員を代表して「たくさんの方からご支援をいただきありがとうございました。

気温が52度にもなる過酷な環境でしたが、家族との繋がりをしっかり取ることができ、心の支えとなり任務を完遂できました。」と述べました。

帰国行事終了後、体育館や駐屯地厚生センターで派遣隊員とご家族が懇談等を行い、約６カ月ぶりの再会を喜びました。

楠見陸将、７月30日派遣海賊対処行動支援隊（第19次要員）の出迎え及び帰国行事を実施しました。

豪州における米豪軍との実動訓練
サザン・ジャッカルー２０２３
第44普通科連隊

第44普通科連隊（連隊長 湯舟１佐（当時））は、６月22日から７月13日豪州クイーンズランド州タウンズビル演習場等において実施された、「令和５年度豪州における米豪軍との実動訓練（サザン・ジャッカルー２０２３）」に参加しました。

本訓練では、市街地を含む攻撃・防御及び各個から小隊までの相互連携した戦闘射撃訓練を行い、対ゲリラ・コマンドウ対処に係る作戦遂行能力及び米豪軍との相互運用性の向上を図り、「自由で開かれたインド太平洋」の維持・強化に寄与することができました。

実動訓練に参加した隊員からは、「米豪軍との共同訓練を通して、認識の統一や調整の難しさ、２週間以上に渡る状況下訓練での疲労感など感じましたが、それ以上に任務達成した時の達成感は最高でした。

また、国内とは異なる地形での実弾射撃訓練を行い、とても良い経験ができました。」などの声が聞かれ、戦術技量の向上を図ることができました。

第54回福島わらじ祭り支援
福島駐屯地

福島駐屯地（司令 古庄１佐）は、８月４日から５日の２日間、福島市内で実施された「第54回福島わらじまつり」を支援しました。

わらじまつりには、福島駐屯地の第44普通科連隊に所属する新隊員教育隊の隊員49名が参加し、福島市内の国道13号線を、福島大学及び福島学院大学の学生と共に「大わらじ（長さ12ｍ、重さ２ｔ）」を担ぎ、ワンチームとなってパレード（蛇行行進）を行いました。

「わっしょい！わっしょい！」と大きな掛け声とともに沿道にいる観客に大わらじを傾けたり、大わらじを回転させる大技を披露して、祭りを大いに盛り上げました。

参加した隊員からは「福島市の伝統行事に参加できとても良かった。」などの声が聞かれました。

本まつりへの支援を通じ、自治体等の関係者との連携を強化するとともに、自衛隊に対する地域の方々の信頼感の醸成を図ることができました。

夏休みちびっこ大会
福島駐屯地

福島駐屯地（司令 古庄１佐）は、令和５年８月８日福島駐屯地において「令和５年度夏休みちびっこ大会」を開催しました。

夏休みちびっこ大会は、福島市内の学童クラブ、スポーツ少年団の子供たち21名が参加しました。

歩測体験（宝探し）、隊員食堂での体験喫食、軽装甲機動車の体験搭乗及び防衛館見学などを実施しました。

歩測体験では、子供たちは各々の40ｍの歩数を覚え、宝探し会場（駐屯地グラウンド）に向かいました。覚えた歩数をもとに子供たちは、力をあわせて宝を探し出すことが出来ました。

また、昼食は隊員食堂において隊員と一緒に並び、食事の量に驚きながら受け取り、残さずに食べようと頑張りました。

午後は、軽装甲機動車の体験搭乗を行いました。間近で見る自衛隊の車両に、興味津々で目を輝かせていました。

参加した子供達は、「歩測が難しかったけど、みんなと協力して宝探しゲームができて楽しかった。」「お昼ごはんがとてもおいしかった。」と話していました。

本ちびっこ大会の開催を通じ、子供たちや保護者の方々の自衛隊に対する理解を促進し、信頼感及び親近感の醸成に寄与することが出来ました。

第61回山形花笠まつり
第20普通科連隊

第20普通科連隊（連隊長 武田１佐）は８月５日から６日の２日間、山形市で実施された「第61回山形花笠まつり」に参加しました。

山形花笠まつりは、山形市十日町交差点から「文翔館（旧県庁）」までの約８００ｍを踊りながら歩く山形を代表するイベントで、今年はコロナ禍を経て４年振りの本格開催となりました。

連隊は、躍動感あふれる笠回しが持ち味で選抜された花笠隊に加えて、新隊員による若さ溢れる正調踊り（一部アレンジ）、ダイナミックな動きが魅力の花槍で編成された踊り手72名が山形の真夏の夜を彩りました。

隊員たちは、意気軒昂とした勢いある動きと自衛隊らしく統制された踊り、若さ溢れる元気いっぱいの掛け声で会場と一体となり花笠まつりを盛り上げ、沿道からはひときわ大きな拍手と掛け声が送られました。

隊務に新風
新着任者紹介

東部方面総監部防衛部長へ
１等陸佐　野村　和弘
（第３５代 第６師団幕僚長）

第３６代 第６師団幕僚長
１等陸佐　開（ひらき）　雅史
（陸上総隊司令部運用部副部長）

CAMP TAIWA RECON VI

第６師団（師団長 楠見陸将）は７月３日から８月４日までの間、大和駐屯地及び王城寺原演習場、同周辺地域において「令和５年度師団自動二輪操縦集合教育」を実施しました。

本教育は、第６偵察隊（隊長 宇野２佐）が担任し、偵察部隊及び情報収集部隊等のオートバイ要員として必要な自動二輪（中型）免許を取得させるとともに、各種地形における操縦技術を習得させることを目的に実施しました。

免許取得に必要な技能教習は、部外自動車教習所（富谷市）で行い、大和駐屯地において偵察用オートバイの車両特性、操縦上の着意事項等の教育を実施し、免許取得受験者18名全員が免許を取得しました。

特技練成では大和駐屯地、王城寺原演習場及び同周辺地域にて路上操縦・路外操縦・特技検定を実施し、受験者33名全員に付加特技「ｍ」を付与しました。

令和５年度師団自動二輪操縦集合教育